



原油・ナフサ高騰時代の 食品容器コスト対策



PROVIDING SOCIAL
SOLUTIONS BY
UTILIZING URBAN
RESOURCES

今起きていること、その対策

中東情勢不安から原油・ナフサ高騰時代のプラスチックを原料とする包材が高騰し始めている
そこで求められるのが安定した原料の調達、価格の安定性となる



価格の推移と今後の展望

【ナフサ】

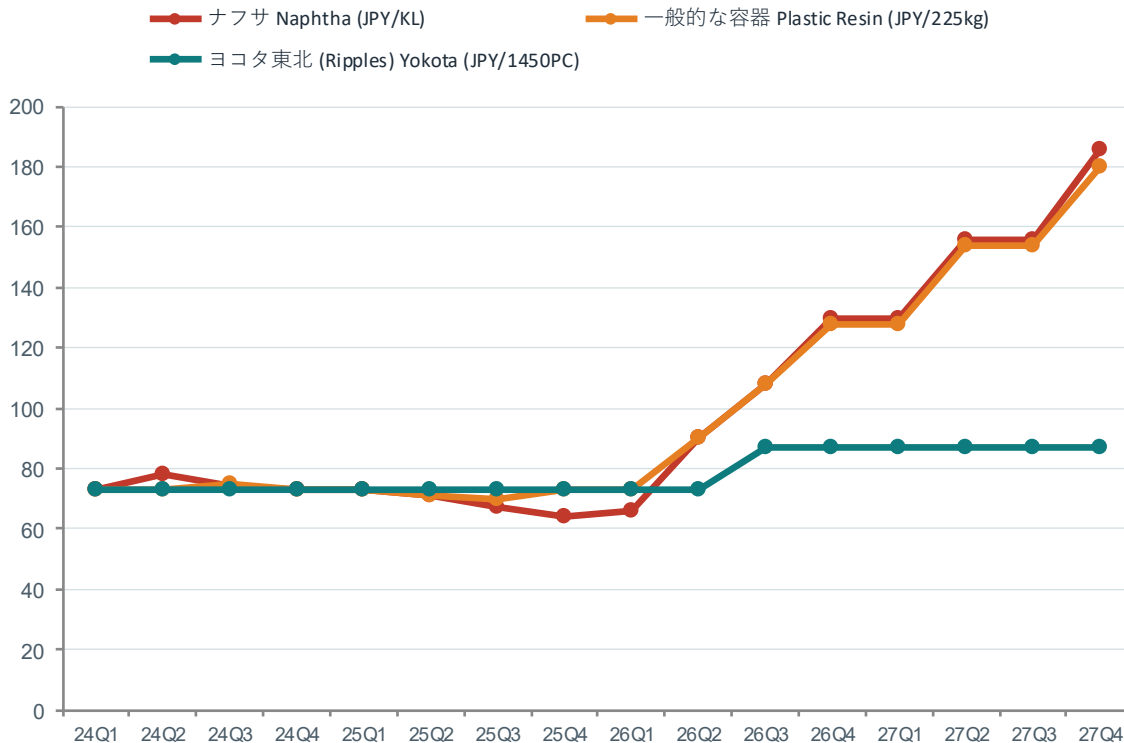
【一般的な容器価格】

【ヨコタ東北容器価格】

で比較

2026年1Q以降は予想価格
ナフサ/一般的な容器は
半年ごとに2割の価格アップで
想定

今後、ナフサの価格はさらに上昇すると予
想される。
長期的な視点で考えるとリサイクル容器に
切り替える必要性が出てくる



「バージン材100%」に依存するパッケージ戦略は、収益性を著しく圧迫するフェーズに突入している。

Ripplesができる3つの提案



ワンウェイ容器

3層構造の中間層にリサイクル材を使用し、バージン材の使用を極力減らします。

01



剥がせる容器

使用後にフィルムを剥がすことで、洗うのと同様の効果を出し、リサイクルを実現します

02



未使用法材/廃棄包材の再資源化

未使用、廃棄の包材を回収し、それを原料に自社製品の容器にし資源循環を実現します

03

御社への
メリット



ecoマーク
コストメリット



ecoマーク
(回収できれば
リサイクル)



余剰在庫削減
容器費用に還元



ワンウェイ容器に関して



Ripplesが作るワンウェイ容器は3層構造になっています

直接接触れる部分にはバージン材を使い、中間層にリサイクル材を活用する三層構造の食品容器です。

衛生面に配慮しながら、バージン材依存を抑えることで、原料高騰の影響を緩和することが期待できます。

コア技術：「3層構造」による安全性とコストの完全両立

外側：バージン材（新品）

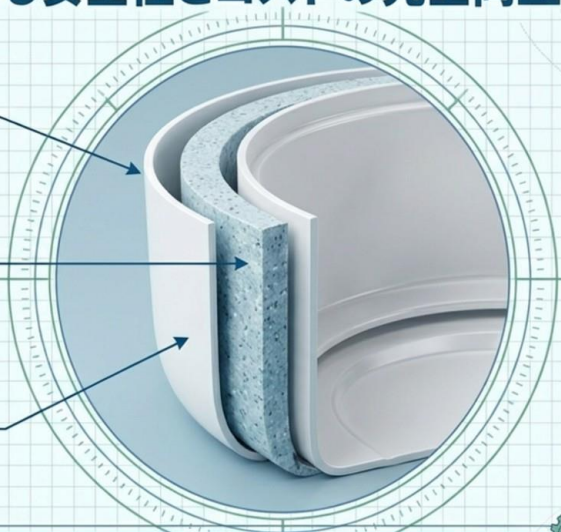
見た目の美しさや印刷品質を担保。

中間層：リサイクル材

全体の半分以上を構成。コスト削減と環境負荷低減（エコマーク取得可能）の源泉。

内側（口に触れる部分）：バージン材（新品）

消費者の口に直接接触れる部分は100%新品の素材を使用し、絶対的な衛生基準をクリア。



バージン材の使用を全体の30～40%に抑えることで、原油価格上昇のダメージを最小化。

現在使われているワンウェイ容器の一例



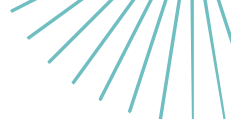
大手持ち帰り弁当
メーカーお弁当容器



大手コンビニ
お弁当容器



大手寿司メーカー
海鮮丼容器



剥がせる容器（ペリペリくん）について



使用後のプラスチック容器は、油分や食品残渣が付着することで、容器から容器への水平リサイクルが難しくなります。

そこで、容器の内側にフィルムを貼り、使用後にそのフィルムを「ペリッ」と剥がすことで、容器本体をきれいな状態で回収しやすくする仕組みです。

容器を使用後に回収し、返送することで容器ゴミ削減につながります。



剥がせる容器（ペリペリくん）の採用事例



全国180の大学の学食
数百の学園祭



各種イベント



大学連携



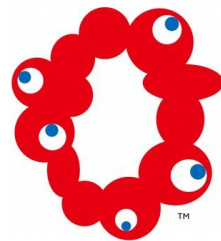
TOKYO 2020



東京オリンピックの
ボランティアのお弁当



大手牛丼チェーンで使用



OSAKA, KANSAI, JAPAN

EXPO
2025



大阪・関西万博
キッチンカーで使用

全国のこども食堂



未使用法材/廃棄包材の再資源化について

※金額はあくまでイメージです

現状



・ 経済的負担および環境リスク

- 未使用包材の処分費用
＝事業系産業廃棄物
- 環境負荷大

新しいスキーム



・ 2段階の経済的メリット および環境貢献

- 未使用包材は有価物として引き受け
 - 廃棄費用がなくなる
- 未使用法材を原料に新型容器を作成
 - 原料代削減
 - エコマーク (環境商材)